

第2回円空大賞円空賞

久世建二（くぜけんじ）

プロフィール

- 1945年：福井県に生まれる
1968年：金沢美術工芸大学産業美術学科工業デザイン専攻卒業
1971年：「日本陶芸展選抜アメリカ・カナダ巡回展」
「現代の陶芸アメリカ・カナダ・メキシコと日本」（東京国立近代美術館）
1972年：「ファエンツァ国際陶芸展」（イタリア）ラベンナ観光局長賞受賞
1973年：「日本陶芸展選抜メキシコ・アルゼンチン巡回展」
1974年：「第11回日本国際美術展」（東京）
1979年：「JAPANTODAY」（シカゴ／アメリカ）
1980年：「CLAYWORK やきものから造形へ」（大津、東京）
1982年：「イタリア巡回日本現代陶芸展」（ローマ、ファエンツァ）
1985年：「国際現代陶芸展」（台北市立美術館）
1987年：「'87八木一夫賞現代陶芸展」（東京、大阪）大賞受賞
1991年：「世界陶芸祭コンペ」（信楽）優秀賞受賞
1993年：「世界の工芸展」（京都国立近代美術館）
1996年：「冒険美術アドベンチャー・大地のささやき展」（滋賀県立近代美術館）
1999年：NHK衛星放送『焼き物探訪』展（日本橋高島屋／東京）
2001年：「金沢21世紀美術館収集作品展」（金沢／石川）他、個展多数



受賞理由

久世建二氏は、土を下に落とし、そこに偶然が生まれる形を行為の痕跡として定着させたものをその芸術の根源におくという。ところが氏は、そういう偶然生まれた形の上に人為のかぎりを尽くすのである。その表面に切断を入れたり掻き取ったりし、色をつけ、金や銀によって装飾し、それによって自然と人為がミックスした不思議な世界を紡ぎ出す。

かつて魔術師といわれる人間がそのようなことを行ったと思われるが、この美の魔術師の作った作品は見飽きることがない。



「痕跡シリーズ 2001-7-2」
撮影／桜井ただひさ



「痕跡シリーズ 2001-7-1」
撮影／桜井ただひさ